

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】(2ユニット/1ユニット)

事業所番号	2790900217		
法人名	社会福祉法人 ほのぼの荘		
事業所名	グループホームみのり		
所在地	大阪府高槻市郡家新町74-1		
自己評価作成日	令和4年9月15日	評価結果市町村受理日	令和4年12月28日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> <li>・利用者様に寄り添った、対応をスタッフ一人ひとりが心がけケアに当たっている。</li> <li>・コロナ禍で制限のある生活を強いられる中でも、工夫しながら利用者様が自分らしく生活できるよう常に考えながら利用者様へサービスが提供できるよう取り組んでいる。</li> <li>・長く働いているスタッフが多く、顔馴染みのスタッフでケアを行っている。</li> </ul>
---

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク福祉調査センター		
所在地	大阪市中央区常盤町2-1-8 FGビル大阪 4階		
訪問調査日	令和4年10月29日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>事業主体は2011年に設立され、2012年に当複合型介護施設「ほのぼの荘」を開設した。当施設の1・2階には特別養護老人ホーム、3階には当グループホーム2ユニットがある。1階の小規模多機能施設は本年4月に休止され、グループホームに移動した利用者もいる。併設施設とは、合同避難訓練、食事の提供、合同給食会などで連携している。事業所周辺にはのどかな田園風景が広がり、食堂や居室から四季を楽しむことができる。グループホームとして大切なことに取り組むよう努め、ケアを拒否する利用者が多い中で、できることを探し職員が良く考えて支援している。管理者・計画作成担当者や若い職員の異動が多い中で、ベテランの職員も多く、10月に就任した管理者や年初に管理者補佐となった職員と共に、より良い事業所作りに取り組んでいる。</p>
---

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果【2ユニット総合外部評価結果】

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎月開催されている全体朝礼にて、法人理念の唱和を行い共有を図れている。事業所理念としては掲げていないが、「利用者様に優しい気持ちで寄り添います。」というケア方針をカンファレンスなどで共有できるように周知し実践に繋がれるようにしている。今後、事業所理念・ユニット理念をスタッフと共に考え掲げていきたいと思っている。	法人理念「心あたたまる笑顔が映し出す生活の実現」を重要事項説明書に掲載して1階玄関と会議室・各フロアにも掲示し、毎月の全体会議で唱和し周知している。別途ケア方針を策定し、入職時のオリエンテーション冊子に記載している。ケアの現場で、できるだけ笑顔を決やさない事を心がけている。	以前は運営理念・事業方針を策定して、運営推進会議資料にも掲載していたが、現在は、事業所理念は策定していない。今後、全職員が参加して、地域密着型共同生活介護施設にふさわしい事業所独自の理念を策定し、利用者・家族にも周知することを望む。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍や猛暑の影響もあり、近年なかなか外出する機会が持てていない。コロナ禍以前は、散歩に出た際には近隣の方から声をかけていただき、交流ができていた。また、毎年10月頃には秋まつりを開催し自治会の方と協力し大規模な催しがあった。その中でも、地域の方と交流を持っていた。	事業所は自治会に協賛しているが、回覧板なども無く、地域の情報は得にくい状況である。コロナ禍のため、地域行事への参加や子どもとの交流なども無く、以前事業所行事で受け入れていたボランティア活動も中止している。コロナ禍が収束すれば、地域会館で地域の施設合同の秋祭りを開催し参加したいとしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	現在、コロナ禍によりなかなか地域の人々へ向けて活かす事には繋がられていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	近年、コロナ禍により開催できていない。令和4年度8月頃に開催を予定していたが、7月中旬時点での爆発的増加による開催を一時断念。また、落ち着いた頃に開催予定。	会議は、コロナ禍が始まる直前の令和元年11月を最後に開催していない。管理者の交代が多くて引継ぎが不十分だったこともあり、書面での開催も実施していない。現管理者が最近就任したのを機に、コロナ禍が落ち着いた頃に再開したいと考えている。	運営推進会議は、地域の人や利用者・家族などの意見を運営に反映する重要な場である。今後コロナ禍の中にあっても、できるだけ詳しくて分かり易い活動報告をメンバーと全家族に配付し、意見を収集して対応を検討し、議事録を配付する取り組みを望む。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議の開催が難しくなり、以前に比べると担当者と密に連絡を取り合う事は減っている。そんな中ではあるが、可能な限り協力関係を構築できるよう取り組めるよう意識している。	市の長寿介護課とは介護保険の更新などで、福祉指導課とは事故や職員異動の報告などで関係している。コロナ禍で、市のグループホーム部会勉強会や介護相談員の訪問は中止になっているが、地域包括支援センター主催の地域ケア会議にケアマネジャーが参加している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	概ね、正しく理解できている。 現場にて、身体拘束に該当するような事や所謂グレーゾーンな部分に関して見られた場合には、都度注意・指導を行う。また、カンファレンスなどでも話し合いできる場を設け身体拘束しないケアに取り組んでいる。	「身体拘束廃止に関する指針」を作成し、3か月毎の身体拘束廃止委員会と年2回の研修で職員に周知している。エレベーターの使用は自由だが、1階玄関と各ユニットの出入口は施錠しており、帰宅願望の強い利用者は、一緒にドライブして閉塞感を無くしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人全体研修などで学ぶ機会を設けており、事業所はもちろん法人全体で防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法人全体研修などで学ぶ機会を設けており、活用に向けて取り組んでいる。 現在、入居されている方の中に成年後見制度を利用されている方もいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時にはもちろん、入居後に疑問点などを持たれる家族様もいらっしゃる為その都度、理解・納得していただけるまで対応を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族様が来荘された際などに、コミュニケーションを図り意見・要望など可能な限り伺っている。外部者へ表す機会については、コロナ禍であり現状は難しいが、今後運営推進会議を開催する際には表していきたいと考えている。運営への反映については、要望があった事については都度事業所内で検討を行いながら行っていく。	コロナ禍の状況を見て、1階の応接室で制限付き(予約制、1日2組まで、15分以内)で利用者と家族が面会する時や、介護計画の更新時、電話などで家族の意見を聞いている。系列3施設が交代で「ほのぼの荘だより」を作成し家族に配付している。「事業所が閉鎖的な感じがする」との家族の意見があり、解決するよう検討している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的な職員面談の実施を行っている。 また、職員から要望があった際には都度面談を実施できるように取り組んでいる。	毎月のユニットカンファレスや1～2か月毎のリーダー会議などで職員の意見を聞いている。年2回の職員面談の前に、仕事・人間関係・異動希望などのアンケートを行って話し合っている。居室担当を設け、居室の整理整頓、衣替え、日用品整理、誕生日色紙の作成をしてもらっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	定期的な職員面談を実施する事で、可能な限り把握し各自が向上心を持ち業務に当たれるよう日々整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	現在、コロナ禍でありなかなか外部への研修という機会は持っていない。全体研修や事業所内研修を設けて、可能な限り働きながらトレーニングできる機会を設けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍により、そういった交流の場を作ったり出向く事が難しい。今後、コロナ禍におけるネットワーク作りは課題と考えている。		
<b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	概ね、取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	概ね、取り組んでいる。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	概ね、取り組んでいる。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	概ね、関係が築けている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナ禍において、面会制限などをせざるを得ない状況である為、難しい中ではあるも出来るだけ絆を大切にしていけるよう取り組んでいる。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	可能な限り支援に努めているが、コロナ前に比べると疎遠になっている様にも感じる。	面談記録票の生活歴や家族の話、支援経過記録などから利用者の馴染みの関係を把握し共有している。コロナ禍のため家族以外の訪問は無いが、結婚式や法要に出かける利用者もいる。同フロアの隣のユニット利用者と仲良しになった人も居て、関係が継続するよう支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	概ね、支援できている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	同一建物内にて、特養もある為GHでの生活が難しくなり特養へ移動した方に関して、その後のフォローを行えるように努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	概ね、実践できている。	面談記録票や支援経過記録などから利用者の意向を把握し、職員はLINEやカンファレンスで共有している。半数の利用者は意向の表出が難しいので、和やかで話し易い雰囲気を作り、できるだけ自己表現や自己決定をするよう働きかけている。希望に沿って誕生日に寿司を提供するなどして喜ばれている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	概ね、実施できている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	実施できている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	概ね、実施できている。	支援経過記録・個人記録・モニタリングなどを基に、長期目標1年・短期目標半年の介護計画を作成し、3か月毎にモニタリングしている。家族からは面会時や計画作成前に、医師・看護師からは訪問診療・看護の時に意見を聞き、サービス担当者会議(管理者・ケアマネジャー・リーダー・スタッフが参加)を開いて半年毎に見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録の実施については、今年4月からPCでの記録を導入しはじめは不慣れなスタッフも多く漏れも多かったが段々と慣れてきている。今後は、情報共有をしっかりと行い実践・介護計画の見直しに活かしていきたい。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族のニーズ等に関しては、可能な限り柔軟に取り組めるよう努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍という事もあり、なかなか地域資源の活用はできていない。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	概ね、支援できている。	入居時の話し合いで全員が協力医を主治医とし、月2回の訪問診療を受けている。2名の看護師(非常勤)が週2回健康チェックを行い、24時間連携体制も整えている。う。歯科衛生士が毎週訪問し、希望者の口腔ケアをしており、必要な場合は随時歯科医が治療を行っている。精神科・整形外科に通院する場合は家族が同行している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	概ね、支援できている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	状況にもよるが、可能な限り早期退院できるよう家族様含め、病院関係者との相談に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に意向確認書を交わしている。その後本人の状態変化があった場合には、早い段階で話をしながら情報共有しているよう取り組んでいる。	入居時に「重度化対応・終末期ケア対応指針」を利用者・家族に説明し同意書を交わしている。状態変化があればその都度意向を確認している。今年度は、終末期を迎え話合いの結果家族の意向を尊重した2例(医療ケアを望み病院へ入院、自宅で最期を看取り)があり、ホームでの看取り例は無い。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを作成し、急変や事故発生に備えている。実際に対応行った際、スムーズに行かない場合には、カンファレンスや面談などの場を設けて、振り返りながら実践力を身につけられるように指導行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回避難訓練を実施し(1回は夜間想定)、避難できる方法を全職員が身に着けられる様実施している。	夜間想定火災訓練を併設施設と合同で実施している。歩ける利用者1名と職員5名～8名が参加し、通報訓練や避難ルートの確認などを行っている。併設の特別養護老人ホームが福祉避難所として登録されていて、備蓄品は管理栄養士が管理し、館内全体で3日分程の水・食品などを保管し、屋上に蓄電池の用意がある。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人権擁護の観点から、カンファレンスなどで不適切な声かけがあった場合には、指導・注意を行う。	外部講師によるZOOMでの接遇研修を行っている。利用者には苗字で呼びかけ、敬語が原則だが堅苦しくならないよう、優しくフレンドリーな雰囲気作りを心がけている。個人情報については、紙の書類は鍵付の書庫に保管し、パソコン内のデータは漏洩しないよう厳重に管理している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	可能な限り、自己表現や自己決定をしていただけるよう働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	全体での行事などがある際には、こちら側の都合を優先しがちな場面も出てきてしまうが基本的には、本人の希望に沿った支援ができるよう取り組んでいる。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の意向を可能な限り聞き取り、その人らしい身だしなみができるよう支援に努めている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	本来、グループホームなので一緒に準備等を行いたいのが現状だが、現在コロナ禍により、制限をせざるを得ない状況が続いている。片付けについては、生活リハビリとして一緒に取り組んでいただけるよう支援している。	1階の厨房で外部業者が献立・調理した料理を朝・昼・晩提供している。白飯のみ各ユニットのキッチンで職員が炊いていて、職員は見守りや介助に徹することができる。利用者はできること(洗い物・食器拭きなど)に参加している。職員が交代で検食し、館内合同の給食委員会に管理者が参加して献立などを話し合っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	概ね、実施できている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	概ね、実施できている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	現在、自立されている方が多い。	布パンツ利用者が5名、その他はリハビリパンツとパッド併用である。夜間は随時トイレへの声かけをするが、念のためオムツとパッドを併用する利用者もあり、ポータブルトイレを4名が使用している。職員はパソコン内の排泄パターンアプリのデータを確認・検討して早めのトイレ誘導を行い、トイレでの自立排泄の維持に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	概ね、取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	現状、午前・午後である程度時間に余裕を持ち声掛けを行っている。	週2回の入浴が基本だが、リラックスした時間を大切に話をしながら楽しい入浴を支援している。入浴が大好きで湯船から出たがらない利用者には、のぼせない程度にゆっくり入ってもらふ配慮をし個別に対応している。重度化して湯船を跨げなくなればシャワー浴と足浴で対応するが、今年度は2名が機械浴のある併設施設に移転している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	概ね、実施できている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	副作用等については、把握できるよう内服変更があった場合には周知を図れるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	概ね、実施できている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	現在、コロナ禍によりなかなか実施できていない。	日光浴にぴったりの開放感一杯の屋上は広々として、周りに広がる田んぼや畑の景色を楽しめる。階段やエレベーターで屋上に上がるが、年1回程のお茶会や不定期に外気浴に出る位で余り活用していない。感染対策でエレベーターの共有を避けているため、1階に降りて近隣を散歩するのは引き続き自粛している。	周りには田んぼや農園が広がり、神社も近くて人通りも少なく、車も通らない恵まれた散歩コースがある。コロナ禍とはいえ3年近くもの散歩自粛は利用者のストレスとなっていると思われる。目標(週1回は散歩に出るなど)を決め、感染対策に留意しながら散歩(屋上や近隣の)を再開することを期待する。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	施設として、預り金を行っていない為取り組めていない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望された場合には、可能な限りやり取りでいるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	レクリエーションで季節の張り絵などを利用者様と一緒にいき、それを掲示し居心地良い空間作りができるよう取り組んでいる。	廊下に2脚のソファ、リビングには3テーブルが配置され、ハロウインの飾り付けや写真などが賑やかに飾られていて、利用者はお気に入りの席で寛いでいる。掃き出し窓は広々として採光が良く、回りの田園風景を一望でき、季節の移ろいを感じられる。定期的に感染症対策を行い、清掃も行き届き清潔に保たれている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	認知症の方ではあるが、共用部での座席はほとんど決まってしまう。ソファを設置しており、そこで時に一緒に座りコミュニケーションを図りながら居心地良く過ごしていただけるよう支援している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	個々の居室は広いので、入居の際に案内をして本人が居心地よく過ごしていただけるような工夫を家族と相談しながら工夫している。	窓から田園風景が見える広めの居室には、洗面台・ベッド・カーテン・エアコン・換気扇・チェストが設置され、利用者は馴染みの筆筒・仏壇などを持ちこんでいる。安全な動線確保のため、ベッドの位置を変えるなど工夫している。職員が利用者と毎日掃除をしているが、週1回のシーツ交換時には専門職員が清掃している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	概ね、実施できている。		